



亀っ子だよ

第40号

— 亀崎小学校 校長通信 — 2021年6月1日

「待っていてくれてありがとう」

ある朝、高根橋の横断歩道のボラパトさんに挨拶をして学校に戻ろうとしたとき、高根橋南の線路沿いの道を歩いている黄色い帽子の子が2人見えました。そこで、その子たちが来るまで高根橋で待っていました。横断歩道を渡り、「おはようございます」と声をかけると、「待っていてくれてありがとうございます」と返事をしてくれました。私が思っていた返事とはちがっていたので、びっくりしました。でも、こちらの気持ちが通じたように感じられてうれしい気持ちになりました。爽やかな気持ちにさせてくれた朝でした。

中野順子先生が喜んでいました

今年度から通級指導教室を担当してくださる中野順子先生が、私のところへ来て「今日、廊下ですれ違った子が『おはようございます』と声をかけてくれました。私は通級指導教室担当なので、子どもたちは私の顔をまだ知らないと思います。それなのに挨拶をしてくれた子がいるなんて、とてもうれしく思いました」とキラキラした笑顔で話してくれました。きっと中野先生は、知らない子ばかりの亀崎小学校で不安に思いながら廊下を歩いていたのでしょう。でも、その不安を子どもたちの「おはようございます」が吹き飛ばしてくれたのです。挨拶の力ってすごいとつくづく思いました。たった1秒で人を元気にできるのですから。

亀崎小学校が挨拶で一杯になり、元気一杯の子どもたちが育つ学校にしていきたいとあらためて思いました。

ある朝のできごと

ある朝、運動場へ向かうアスファルトを歩いていると、悲しげな顔の低学年の男の子が近づいてきました。「何かいやなことがあったの？いやなこと言われたの？」と聞くとうなずくものの、それ以上の話はなく、アスレチックへ降りて行くところに腰を下ろしてしまいました。その様子を見ていた男の子が「どうしたの？」と話しかけてきたので「何か言われたみたい」と答えると、ずっと悲しげな顔の男の子の隣に座り、何やら話しかけていました。話しかけた男の子は、少しすると行ってしまいましたが、微笑ましい光景だと思い見ていました。チャイムが鳴り、教室を見に行くと、男の子は座っていたので、ほっとしました。

1年生の係活動を支援してくれる高学年

ゴールデンウィークが終わった頃から、1年生の係り活動が始まりました。学校に慣れ、責任をもって仕事を行う学習が始まったのです。こんだて係、こくばん係、たいいく係などの係を1年生が頑張っている。ある朝、出欠黒板に欠席者の人数を1年生のほけん係が書きに来たところに出会いました。その子は、どこに書いたらよいのか自信がない様子でした。すると、欠席黒板を書きに来た6年生の女の子が、困っている1年生に書き方を教えてくれて、書き終わるまで見守ってくれました。「優しい子だな」とその様子を感じて見ていました。1年生の子は、係の仕事を無事終わることができ、ほっとした様子で教室へ帰っていきました。心温まる光景でした。

表彰の記録

- リトルリーグ野球協会 東海連盟三河ブロックマイナー大会
優 勝 知多リトルリーグ
長嶋 優和（5年）星野 暖翔（5年）星野 友志（3年）
- 第35回全日本小学生女子ソフトボール大会愛知県予選会
第3位 半田フェニーズ
滝塚ちえり（6年）原 亜実佳（6年）奥野 倅奈（6年）澤田 悠乃（6年）
兼井 梓紗（6年）澤田 朱璃（3年）
- 第44回東郷町春季小学生ソフトボール大会
第3位 半田フェニーズ（メンバーは同上）

♣ 子育てアラカルト ♣

[いろいろな言い方]

ピアノを習いたいと子どもが何度も言うので、習わせることにした。ところが、3回目のレッスンから帰ってくるなりこう言った。

「ピアノやめる。もう行かない。」

さて、この子どもの言葉に対して、親であるあなたは何と言うだろうか。

- 1 「どうしたの？なぜ？」（質問）
子「なぜって、えーっと（言い訳）」
- 2 「ぐずぐず言わないで、行きなさい」（命令）
子「絶対行くもんか！」（反発）
- 3 「ピアノどうするのよ。行かないならお母さんにも考えがあるから」（脅迫）
子「（もういいよ。二度と言わないから）」
- 4 「続けなきゃ、これからの人生で困るんじゃないの」（説教）
子「（結局、私の気持ちを聞いてくれないんだ・・・）」
- 5 「ピアノの先生に相談してみたら・・・。」
子「（相談してどうするのよ・・・）」
- 6 「えー。何言ってるのよ。すぐに弱音を吐いて。イヤね！」（いやみ）
子「（言わなきゃよかった・・・）」
- 7 「いつも、あなたはそうなんだから！」（否定）
子「・・・（黙って反発）！」
- 8 「何かあったの？先生に何か言われたの？」（分析）
子「そうじゃなくて・・・。（わかってないな）」
- 9 「もう少しだけ続けてごらん。やめるのはいつでもできるから」（ごまかし）
子「・・・（今やめたいの。言ってもムダか）」
- 10 「いいわよ。やめたら。」（同意）
子「（どうでもいいのかな？）」
- 11 「あなたは どうしてそんなに甘ちゃんなの」（はずかしめ）
子「・・・（どうせ私はダメなのよ）」
- 12 「行ってくれたら、ほしかったゲーム買ってあげるわ」（交換条件）
子「・・・（そういう話じゃないんだけど）」
- 13 「（優しく）そう、行きたくないんだ・・・」（受容）
子「・・・（気持ちがわかってくれたかな）」

いろいろな言い方があるが、1～12の言い方では、次のような弊害が出てくる。

- 話がそれ以上続けられなくなる。 ○黙らざるを得ない。
- 反発、反撃したくなる。 ○自分はダメだと感じる。
- 憤慨する。怒りたくなる。 ○罪の意識をもつ。
- 今の自分のままでは受容されない。自分を変えなければと思う。
- 自分で解決できないと思われている。信用されていないと感じる。
- まるで子どもみたいに、あやされているような感じを受ける。
- 自分のことを理解してもらえないと感じる。

13のように、ただ子どもの気持ちを聞いてあげたらいかが？

（ある教育者のひとり言 より）

